

G-2 最近の学生 生徒の生活意識および行動(ホニ報) —役割行動について—

兵庫女短大 O上登タルエ 井上肇子

武庫川女大 須見 恒子

目的 家庭科教育を担当する私共は、今日までに衣・食・住・体育・余暇生活等の分野で調査研究し、時代と共に変化する生活の実態を教材に 供してきた。近來、青少年の生活行動については、問題があり、それらに家庭科教育の教材にも関係深いことを痛感する。今回、特に、学生・生徒の生活意識および行動の実態を知り、その変化の特質と要因を見出し、今後の教育に資したい。

方法 実態調査

1. 調査地域 京阪神および丹波地区
2. 調査対象 総計 3180名 (高校生男女・女子短大生)
3. 調査時期 昭和33年1月～2月
4. 調査方法 質問紙法により記入する。
5. 調査内容 役割行動

結果 役割行動を三つに大別する。(1) 役割行動の種類 (2) 役割行動に取り組む態度

(3) 役割行動についての両親の態度となる。(1)では掃除が第一位となっている。これは生活環境を整備することに重点をおいているのであろうか。(2)では、勉強やクラブ活動が忙がしいから、と考えている。(3)については 両親ともに こどもを非常に甘やがしている。こどものしつけの面では 両親は共通理解および意志統一をはかり、家庭内での基本的な生活習慣はぜひとも身につけさせ、「たくましいこども」に育てることがたいせつである。